

コロナ禍における取り組み

歩道をオープンテラス化する暫定的な規制緩和が行われ、ソーシャルディスタンスを確保する取り組みが行われた。（埼玉県では、WSのコーディネータである八木氏の108 ocha standが第一号事例）

最近できている新たな仕組み

ウィズコロナ期における各地のイベント



道路上手に促っていくための
5つのポイント

- 1) ハード対応
- 2) 規制緩和・規制回避
- 3) 公民連携室の設置
(石版・壁画のワンストップ窓口)
- 4) 都市経営を担う
民間沿道経営体の組織化
- 5) 民間プレイヤーの発掘



SAGAナイトテラスチャレンジ

最近できている新たな仕組み

コロナ禍での緊急措置



熊谷市 108 ocha stand
埼玉県で施策活用第一号

国土交通省

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様へ

地方公共団体等と連携して申請すると

テイクアウトやテラス営業などのための 道路占用の許可基準を緩和します

国土交通省では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様を支援するための緊急措置として、地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占用許可基準を緩和することとしました。
また、地方公共団体に対しても同様に取り組んでいただけるよう要請しています。



イメージ（後援県より提供）

今回の緊急措置のポイント

内容	① 新型コロナウイルス感染症対策のための暫定的な営業であること ② 「3密」の回避や「新しい生活様式」の定着に対応すること ③ テイクアウト、テラス営業等のための仮設施設等の設置であること ④ 施設付近の清掃等にご協力いただけること
主体	地方公共団体又は関係団体※1による一括占用※2 ※1 地元関係者の協議会、地方公共団体が支援する民間団体など ※2 個別店舗ごとの申請はできません。 お住まいの地方公共団体等にご相談ください。
場所	道路の構造又は交通に著しい支障を及ぼさない場所 ※ 歩道上においては、交通量が多い場所は3.5m以上、その他の場所は2m以上の歩行空間の確保が必要です。 ※ 沿道店舗前の道路にも設置可能です。
占用料	免除 （施設付近の清掃等にご協力いただけている場合）
占用期間	令和2年11月30日まで

【お問合せ】

国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室 占用許可担当
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8481（直通） FAX: 03-5253-1616

第二部 ワークショップ概要説明

登壇者 コトラボ合同会社 岡部友彦

講演内容

1. ワークショップのもう一つのテーマ
「街のことを考えていく仲間をつくろう」
→ワークショップを通して、街のことを考えるコミュニティ作りを目指す
2. ワークショップの流れ
 - ①エリアの価値を再考してみよう
まち歩き・地域の魅力や課題を発見、共有
→3グループに振り分け
↓
 - ②エリアの余白を妄想してみよう
エリアの魅力をプロットしたマップをもとに、
妄想するエリアの余白を選定。
どんな要素を加えれば、
より楽しい街が生まれるかを考える。
↓
 - ③妄想を形にしてみよう
各グループで出てきたアイデアを具体化し、
実験的な行動に落とし込む。
↓
 - ④実践・まとめ

第三部 地元建築士の視点から見た現在の星川

登壇者 エイエイオー 白田和弘

講演内容

1. 星川の過去
星川周辺には戦後の闇市から始まった商店街があり、その後遊郭をはじめ、料亭などが立ち並び、芸妓さんが歩いていた等かなり賑やかな街という過去がある。多くの人で賑わい、星川も水辺利用されていた記録がある。

当時の様子



2. 都市の成長

人口増加による都市拡張で都市は急成長。道路は整備され車社会へと変化。結果的に便利さを追求していくとロードサイドには大きなチェーン店や便利なスーパーや大型ショッピングモールが立ち並ぶようになった。

→人を受け入れ、成長してきた一方、車社会の中で商店街は商売が難しくなり、結果的に空き家が増えるシャッター商店街へとってしまった。

3. これからの熊谷・星川

再び星川が賑やかな姿を取り戻すために、必要な考え方を提案。

- ①街を考える仲間たちとシェア
- ②小さいことから無理なく
- ③自分たちの暮らしを想像しよう

ワークショップ拠点見学 シェアカフェエイエイオー



108ocha stand / シェアスペーストナリノ



事前説明会参加者の声

元々カフェやコーヒーが大好きで、しかも熊谷はだんだんコーヒーで盛り上がってきている印象があるんです。普段から散歩中、シェアカフェAAOさんなど見ていていいなと思ったり、もっとカフェとかができればいいのになと思ってるうちに、どんどん関わりたい！と思っていました。熊谷も散歩する度に、なんか寂しいなあ、もっと明るくなればいいのになと常々思っています。ワークショップは全回参加します！まちづくりのゼミにも通ってるので、なにかいいヒントも得られればと思っています。

2. 第1回ワークショップ

日時：令和2年9月26日(土)

場所：シェアカフェ エイエイオー

参加者：24名

テーマ：エリアの価値を再考してみよう

当日の流れ

1. ワークショップ全体概要説明
2. ゲストアドバイザー・コーディネーター紹介
3. 3グループに分かれてまち歩き
4. マップにそれぞれ気づいたことを記入
5. グループにて共有
6. 各グループ発表
7. チーム編成

講演方法

当日は新型コロナウイルス感染症対策として、人数を制限し、シェアカフェエイエイオーのカフェ部分と奥にある倉庫スペースの2拠点で行われた。倉庫スペースにもスクリーンを設置し、カフェで行われている説明の映像を流す形で実施した。



まち歩き実施方法

参加者全員でまち歩きをし、実際に見聞きしたものをスタジオに持ち帰り、地域の魅力や課題点、基礎情報などをマップにプロット。マップを眺め、「こう変えたらここがもっと良くなるのに」と妄想できる場所を見つけて、こうなったら良いなと思える未来を想像し、全体で共有した。 1グループ 7~8人 3グループ での実施となった。

〈記入において参加者に注視してもらった項目〉

a.空き地 b.ストリート c.水路 d.屋上 e.未利用空間

第1回 結果概要

第1回のワークショップでのまち歩きにおいては、魅力よりも課題に対して多く目がいくような結果となった。空き家・空き地、ストリート、水路など、どの分野にしても星川周辺は参加者が日常生活で頻繁に利用している地域と言い難く、改めて細部に目をむけてみると課題部分が浮かび上がってくる参加者からの意見が多数見受けられた。

チーム編成

第1回のワークショップの結果を元に、参加者はそれぞれの希望を元に下記3チームへと編成。

チーム	概要	コーディネーター	アドバイザー
ストリート	星川通り周辺の活用について考える	白田・森	永田
水路	星川・星川周辺の活用について考える	八木奈・真島	濱西
空き家	“太原堂”を中心に空き家の活用を考える	八木重・植松	原

第2回実施項目

カテゴリー	内容
ストリート	道路空間でやってみたい妄想アイデアを収集、テーマを設定し、議論を行う。
空き家	空き家を使って何ができるのか、何を取り組んでみたいのかアイデアを収集、議論を行う。
水路	星川・星川周辺の「良いところ」「悪いところ」星川周辺でやってみたいことの「アイデア」を収集し、議論を行う。

3. 第1.5回 ミーティング

1回目から2回目までの間にも、コーディネーターの主導のもと1.5回のミーティングと称し打ち合わせを数回行い、意見交換を行った。またオンライン上においても、Facebookグループをそれぞれのチームごとに作成し、メンバー間のコミュニケーションを図るとともに、各カテゴリーにおいての参考事例を紹介するなど、知識共有も積極的に行った。

ストリートチーム

実施日時：令和2年10月13日(火)

場所：シェアカフェエイエイオー（一部オンラインにて参加）

実施内容：アイディア出し

第2回に向けてそれぞれの妄想アイディアを出し合い、共有した。まずは一回実行してみることをゴールに、そしてゴール後も持続可能かどうかを念頭に置きながら第2回のワークショップを行うことでまとまった。また、オンラインでは積極的に国内外の参考事例を紹介し合い、ストリートや街の余白がどのように使われているのか知識共有した。



◎1.5回で出された「自分たちのやりたい事ができる地域」主な意見

- ・ 夏の中継のロケ地作りなど人と人がつながるフードコート
- ・ 縁側みたいにのんびりてできるところを設置してみたい。
- ・ 毎回テーマが変わるマーケット。
- ・ 食べれる植樹からスパイス作って、ストリート発クラフトコーラ

空き家チーム

実施日時：令和2年10月13日(火)

場所：シェアカフェエイエイオー（一部オンラインにて参加）、太原堂

実施内容：アイディア出し・分類

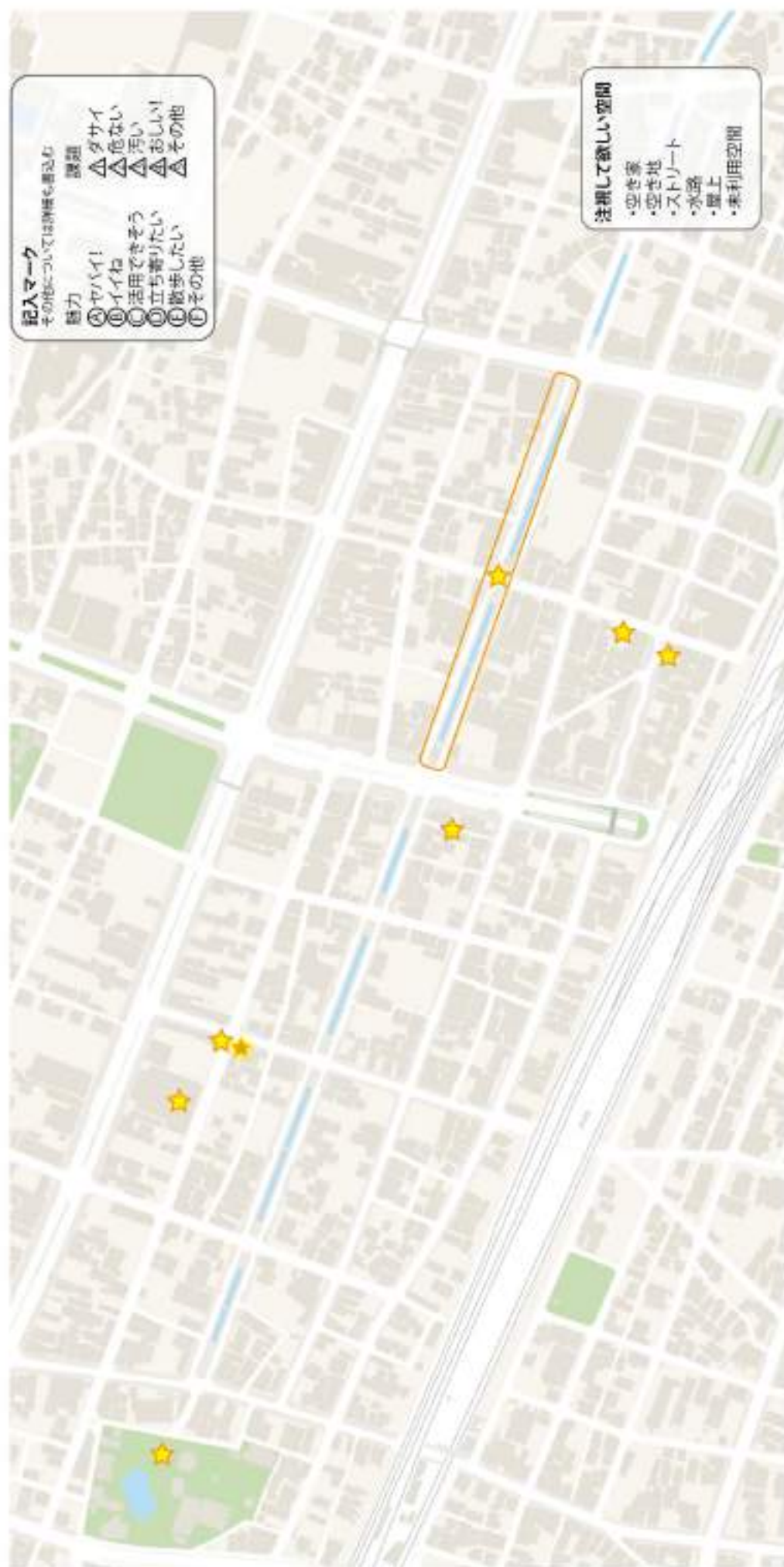
太原堂の現地調査、オーナーさんからの話を伺うなど空き家の現状について情報を把握した上で、妄想アイディアを出し合い、カテゴリーごとのシートを作成した。これらをもとに第2回の議論を行う。

◎1.5回で出された空き家活用の主な意見

- ・ みんなの本で作る図書館
- ・ 農産物直売
- ・ セルフ喫茶店
- ・ 家と街 街と家の間にある場所

フィールドワークマップ

街を歩きながら気になったところを記入しよう。人が多い地点や行ったことのないけれど入ってみたいお店、この空間無駄じゃない? など、色々と思うことをマップに記載してみてください。感情的に動かされる地点があればそれを記載したり、建物、空き地、道路、水辺などでここをこう使ったら面白いんじゃないか? などの視点も記載してみてください。また、記入マークも活用し、後で見直しやすい表現にしておいてください。

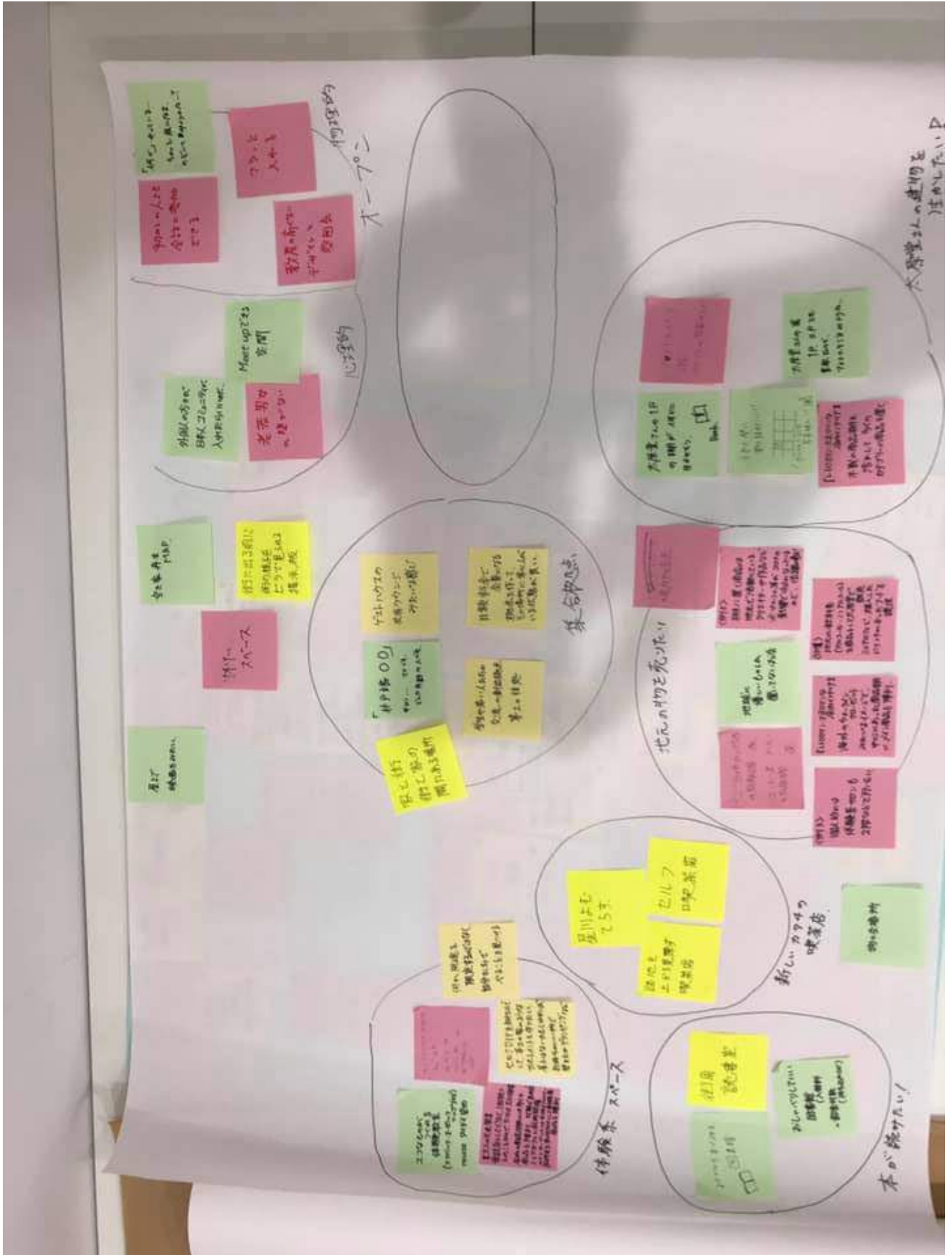


第1回ワークショップ フィールドワーク集計結果

付箋の色
ピンク：グループ1
黄色：グループ2
水色：グループ3

魅力	課題
空き家・空き地 大正・昭和感のある建物が多く、魅力がある 空き家活用しているお店がちらほらあって良い 古い建物と新しい建物が混在統一感はないがそれもよし 太原堂2階上手に使ったら良さそう	空き家・空き地 空き家が目立つ 空き家が多く町全体が寂れた印象に見える 空きスペースを活かしていないキッチンカーなどあったら 空き家も中に入りさえすれば素敵なにもったいない 建物の雰囲気は揃っている気がするが、活かされていない
ストリート 所々、フォトスポットになりそうな場所が点在している 星川周辺は個性的な店舗が似合いそうなストリート	ストリート 星川の映像怖い 木造のベンチ古くて汚く、座る気になれない 全体的に人の数が少ない 安全に歩けるような道ではないと思う 商店街という名前が何かもったいない お店はできていいるが、人はいない 子どもが家族で来るようなお店はなさそう 大通りと星川は分断されていて行き来しない 通りにわざわざ来るような理由がない
水路 星川という響きが素敵 子どもたちは川遊びできそう 海の家のように川の楽しみなものがあったら面白い	水路 ベネチアみたいにしんぼルとして活用できたらいいのに 水が汚い 東屋の備みがひどい 子どもが入れるような綺麗な川ではなさそう 川の活用方法がわからない 星川の餌のこと全然知らない 星川周辺の役割がなさそう
屋上 立体駐車場は色々活かせそう。花火見たり。	駐車場 立体駐車場は暗くて古い使いづらい 立体駐車場上層階や屋上は全然使われていない 無駄に駐車場が多い 駐車場はあるが便利な場所にはない 身近に公園がない どこにも休憩場所がない コンビニがなさすぎ チェーン店とかないので、引きが弱い 「暑い」は星川にあまり活かされていない フリマとかあっても知らない事が多い 情報があまり伝わってこない その他 水よしホルモン文化





実施日時：令和2年10月13日(火)

場所：シェアスペーストナリノ

実施内容：アイデア出し・分類

第2回に向けてまずは星川と星川周辺の妄想アイデアを出し合い、それをプラス面、マイナス面に分類する作業を行った。当日参加できないメンバーに関しては事前にFacebookグループにて提出をし、全員の意見が集められた。

◎1.5回ミーティングで出された主な意見

「星川の良いところ」

- ・ 星川という響きが綺麗
- ・ 道路の真ん中に川が流れているロケーションが良い

「星川の悪いところ」

- ・ 子どもが遊ぶには危ない
- ・ 休憩できるようなベンチ等がない



4. 第2回ワークショップ

日時：令和2年10月24日(土)

場所：シェアカフェ エイエイオー / 熊谷市営本町駐車場

参加者：25名

テーマ：エリアの余白を妄想してみよう

当日の流れ

1. ゲストアドバイザー スライドレクチャー：原大介 熊谷市営本町駐車場2階会議室
2. 各チーム グループワーク (1時間)
 - ストリートチーム：熊谷市営本町駐車場2階会議室
 - 空き家チーム：シェアカフェエイエイオー 倉庫スペース
 - 水路チーム：シェアカフェエイエイオー カフェスペース
3. 発表・講評 熊谷市営本町駐車場2階会議室
4. 懇親会 熊谷市営本町駐車場屋上

ゲストアドバイザースライドレクチャー：原大介

第2回よりゲストアドバイザーのスライドレクチャーがスタート。感染症対策の為、熊谷市営本町駐車場にて実施。神奈川県で大磯市を行っている原氏は自身の大磯生活と大磯市の成功体験をレクチャー。



第2回 全体概要

第2回目は、各グループに分かれて、各要素を活かしながら新たな熊谷のライフスタイルをどのように生み出していこうかを模索する時間。各グループ明確なゴールは決まらないものの、自分達は何をしたいのか、どのような活動や環境があれば、みんなが関心を持ち、行きたい、参加したいと思えるコトを生み出せるのかを意見をぶつけ合いながら考え始める回となった。

ストリートチーム 結果概要

1.5回のミーティングにて出された妄想アイディアをもとに、アイディアを大まかなテーマに分類、まとめる作業を行った。テーマを「自分たちがやりたいことをやる地域」と設定し、企業と協力しながら行うアイディアから、イベント、日常的にストリートが利用されるためにどのような設えが必要なのか具体的なものまで多種多様なアイディアが集まった。最終的にはコミュニティの希薄さを解消しながら多世代が繋がる何かを取り組んでみたいという共通認識から4つのカテゴリーに分類され、次回から具体的に実現していくための議論へと移行していくことになった。

空き家チーム 結果概要

空き家チームにおいても、まずは純粋に空き家を使ってどんなことを実施してみたいかアイディアを収集、ジャンルごとに分類した。「太原堂」を活かすものから、地域の集合拠点としての活用など多数のアイディアが集まり、これらを「事業性」「ターゲット」「地域のニーズ」をもとに整理した。地域の課題を解決するために空き家を活用することが重要であり、ターゲットも地域の人をターゲットにして進める方向性でまとまった。

水路チーム 結果概要

コーディネーター主導のもと、事前に参加メンバーからこのチームのテーマである星川と星川周辺の「良いところ」「悪いところ」こうなったら良いなと思えるような「妄想アイディア」を収集した。第2回ではまず、「悪いところ」に目を向け、「良いところ」「妄想アイディア」と比較する事で、解消できる項目をつぶしていく作業を行った。その次に残った「良いところ」「妄想アイディア」をカテゴリーごとに分類した。星川と星川周辺の景観や設備、雰囲気に関しては好意的な意見が多く見られたが、このような資源をうまく活用できていないことに関する意見が頻出した。しかし星川に足が向かない理由がいくつも上がる一方で、この作業をしたからこそ改めて星川の魅力を再確認する結果となった。